

職業奉仕

——ロータリーの神髄



Vocational Service

Monika Lozinska / © Rotary International



職業奉仕を考える

■ RI 会長メッセージ
A Message from President Burton



ロン D. バートン
2013 - 14 年度 RI 会長
アメリカ・ノーマン RC

ロータリーで 10 月は、私たちの奉仕の第二部門である職業奉仕を思い出すための月です。ロータリアンの中には忘れられた領域の奉仕と呼ぶ人もいますが、私はそうは思いません。実際、職業奉仕は頻繁に行う奉仕部門であるために、私たちはそれが奉仕だとは常に意識していません。

自らの職業を高潔なものにする

職業奉仕は「ロータリーの目的」の第 2 の項目をルーツにしている、すべてのロータリアンに、職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとするのを、奨励しています。

つまり、職業奉仕の考え方というのは、私たちの仕事は社会に奉仕する一つ的手段だということです。顧客へのサービスであろうと、学生の指導であろうと、患者の治療であろうと、また、商売、研究、メディアなどどんな分野であろうと、私たちは能力と高潔さをもって行う自らの仕事に誇りを持っています。それぞれの職業がニーズを満たし、自分たちの務めを遂行することで、私たちは地域や社会に貢献しているのです。

多様性はロータリーの強み

いつも目立つというわけではありませんが、クラブにおける職業奉仕の役割は重要です。個々に高い倫理基準を保持することで、私たち全体で共有できる信望を得ます。すべての職業を平等に評価し、クラブの中の職業分類の制度を保つことによって、クラブが地域社会を反映するのを

確実にし、地域社会に十分な奉仕ができるようになるのです。全会員が弁護士のロータリークラブでは、教師、エンジニア、経営者、歯科医などの会員からなるクラブの力に遠く及ばないでしょう。ロータリーでは多様性が私たちの強みなのです。この多様性は私たちの奉仕にとってだけではなく、会員にも利点があります。仕事上役に立つ、つながりや機会を見つける貴重な手段を与えてくれるのです。

会員のそのような側面は、ロータリーの誕生した時に生まれました。私も同感ですが、ポール・ハリス自身は、ロータリアンであることとはその人と仕事を一緒にできそうな、ある価値観を持っているという信念を持って、ロータリーの会員であることのビジネスにおける利点について、しばしば書いています。

世界が今までになく結びついている今日、ロータリーの会員であることは、共有できるのを誇りに思うべき栄誉なことなのです。

Ron D. Burton
2013 - 14 年度 国際ロータリー会長

私が考える職業奉仕

職業奉仕… だから…ロータリー

八尾東 鈴木 洋

職業奉仕とは「あなたの職業を通じて他人を助けること」。この表現をどなたが最初にされたか知りませんが、私にはピッタリきます。機会あるごとに新しいロータリアンに紹介しています。

①職業奉仕とは、高い倫理観に支えられたシェルドンの言う事業方法です。1927年、ベルギーのオステンド国際大会で“Business Method Committee”を“Vocational Service Committee”と変更したことで、Vocational Serviceが使われるようになりました。呼称は変更しましたが、以前の本質を変えるものではないと1931年国際ロータリーが作成したパンフレット「目標設定計画」に明記されています。

②ロータリーと他の奉仕団体の決定的な違いは、職業奉仕の概念を持っていることです。以下、深川純一パストガバナー講演録より引用すると、「金儲けの心と、世のため人のために奉仕する心とは全く次元を異にしているわけであります。実は、ロータリークラブ以外のアメリカ系奉仕クラブは殆ど全てこの考え方であります。ライオンズクラブ然り」。ロータリーは、奉仕する心を持って職業を営むべし、金もうけと奉仕はベクトルは違うがその「心は一つだと考えるのであります。すなわち倫理的な金儲けをするということです」

③ Vocational Service = 職業奉仕でよいのか？ 英語の Service と日本語

の奉仕は全く同じ意味を持っているわけではありません。Service にはいくつかの意味があり、その一部が奉仕です。他に仕える、務める、尽力する、役立つなどの広い意味があり、ロータリーはこの広い意味で使っています。Vocational Service は職業活動、職業の役務などと考えると理解しやすいと思います。（第2660地区 大阪府）

優れた職業人たること

徳島南 瀧 誠司

私にとって、職業奉仕とは、優れた職業人たることだと考えています。具体的には、自分の職業（営み）に誇りを持って毎日の仕事に邁進し、お客さまや地域社会に喜ばれる結果を積み重ねていくことだと考えています。

ロータリアンはもともと高い倫理観を持って、それぞれの業務を遂行する立場にあり、その業務をもって社員やお客さまや地域社会に貢献していく立場にあります。私は弁護士という専門職の立場にありますが、ロータリアンの皆さまもそれぞれの業種の特殊性を生かした専門性のある職業活動を行っていることと思います。顧客や地域社会の期待に応えられる存在価値のある企業、労使の信頼関係をもとに社員の個性と創造性が発揮されている企業、雇用をはじめ地域に密着し地域との共生を図っている企業、長期にわたって存続する強靱な企業、自らの職場がそのような企業になるよう日々努力する姿が、私はまさにロータリアンの「職業奉仕」の原点であると考えています。

ロータリークラブの集まりは、そのような高い理念を持ったロータリアンが情報共有、意見交換をして他の職業・企業を理解し、他の職場の良さを自らの営みに還元していく、そして自己改善を図り実力を培い奉仕を広げていく場であると思います。

ロータリーの原則である「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉は、恒常的に職業人として努力すべきこと、そして職業人として努力することが社会に奉仕する絶好の機会であると信じて自らの職業に高い価値を置くべきことを示唆するものであると考えます。（第2670地区 徳島県）

事業人としての 成功発展

油谷湾 岡田 純明

私は、人口約3万5,000人の田舎の町で、50年余り自動車の販売整備を職業としてきました。現在は、従業員10人の小さな会社を経営しております。

ロータリアンになって15年になりますが、入会当時30人以上いたクラブの会員数は昨今の高齢化、後継者不足などにより半減しています。また、社会・国際・青少年奉仕の活動や財団資金の拡大のためか、会員増強が強調され、職業奉仕の精神が脇に置かれているような印象を受けることがあります。

ロータリーの基礎を確立した一人、シェルドンは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と掲げ、ビジネスはすべて社会に尽くす手段でなけれ

ばならないと説いています。

私はロータリーの奉仕精神の基礎となるのは、会員の事業人としての成功発展であると考えます。あらゆる職業は、人々に必要であり、必要とされ役立つものであることが、存在の意義です。そこで私の奉仕の精神は「整理・整頓・清潔・誠実・スマイル」の5Sとし、日々心掛けています。

奉仕活動の第一歩として、職業奉仕に努めていくのはどうでしょう。一人ひとり、毎日、自身の心掛けとして着実に実行していけるものではないかと思えます。そして例会において、もっと活発に事業人としての誇りや喜び、悲しみを語り合い、情報交換をしたいものです。

(第2710地区 山口県)

自社の経営活動の充実と、社員を大切にすること

八代南 前田 満洋

ロータリーの職業奉仕とは、自分の会社の経営活動を充実させることと、社員を大切にすることだと思います。

自分の仕事なくしては、ロータリー活動はできず、もちろん奉仕活動もできません。自社の経営活動をいかに充実させるかが、より良い奉仕活動を行っていく上で重要だと思います。また、地域社会において信用のある仕事をすることも大切だと思います。

私たちがロータリークラブに入会した時、「あなたは、あなたの職業で、地域で選ばれた人です」という話を聞きました。その時は「どうせただの褒め言葉だろう」と思っていました。しかし、ロータリー活動を行っていくうちに地域での信用の必要性を感じる事が多々あり、やはり私たちロータリアンは、地域で認められた人であるべきだと実感しました。

また、私は社員がいるからこそロータリー活動や奉仕活動ができると考えます。いくら経営状況が良くても社員

が幸せでなければ意味がありません。社員一人ひとりの幸せが、会社の経営状況を良くすることにつながると思います。

最後に、愛妻がこの文を読むかもしれませんが、家族の幸せがすべての土台となることを付け加えておきます。(第2720地区 熊本県)

自らと自分の職業を律すること

横須賀南西 永井不士男

今年度は、私が職業奉仕委員長に任ぜられました。地区協議会において、「職業奉仕とは」のテーマのもとに勉強させていただきましたが、職業奉仕は難しい、なかなか一律には規定しがたいとの内容で、数年前に職業奉仕委員長を受けた時と今回とで大きな変化は見ることができませんでした。難しいと論じるより、少なくとも地区単位ぐらいで、「これだ」というものを示していただけると、クラブの活動計画が立てやすくなると思われま。

個人的には、職業奉仕とは、自らと自分の職業を律することに尽きると考えています。例会においてクラブの会員の話を聞き、よい話があれば参考にさせてもらう。当クラブでは伝統的に職業奉仕活動として会員の事業所見学や施設見学などを行っています。他の事業所の理念や活動状況などを聞き、またあらためて会員から話を伺うことにより自らと自分の職業を律する糧にさせてもらえたらと思っています。

また、自らと自分の職業を律する糧として「四つのテスト」の理解と実践が不可欠だと考えます。言行は「四つのテスト」に照らしてから。

(第2780地区 神奈川県)

ロータリーとは！

横手東 伊藤 喜昭

2013年の日本の夏は猛暑と少雨、

まさに日本の未来を予期しているかのような異常な夏であります。私はロータリーに入会して、日本人の倫理観の変化を感じておりました。学校や職場での「いじめ」、生活保護世帯の増加、政治不信と、話題には事欠きません。私の思うロータリーでの職業奉仕とは、まさに日本人が忘れていた倫理観の欠如を思い起こさせる最大のテーマだと思います。

戦後の復興を支えていたのは一人ひとりの倫理観、特に企業経営者の考え方だと思います。ある経営者は、安価な商品を、水道の水のごとく世の中の多くの人々に提供する、水道哲学と言われる考え方で世の中の人に与えました。企業は社員を通じ、多くの人に安定した生活をしていただくよう努力し、社員の法令順守をもっと徹底すべきでありますし、地域に根差した活動をしていくべきだと思います。

わがクラブは12人と少数ではありますが、例会において、卓話を各方面で活躍中のロータリアン、他業種、地域社会で活動している専門職の方にお願ひしております。これからはロータリアン各位が、家庭においては強い絆で結ばれた家族を作っていくことだと思います。ますますロータリアンの重要性は高まってくると思います。

(第2540地区 秋田県)

自分自身を律し、事業を行うこと

東京たまがわ 森田 彰

職業奉仕とは、会員各自があらゆる職業に携わる中で奉仕の理想を生かしていくこと。つまり、職業を奉仕の一つの機会とし、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うことです。

地域社会でも個人でも、奉仕の対象となる人々のニーズに応えるために、職業を通じ、専門職務も実業も自己が保持する技術を提供することです。例

えば、ただ物品を販売提供するのではなく、そこに付加価値（知識や知恵）を加えて、顧客の満足度を最優先した方法を考えます。そのためには、自分自身が常に勉強し、新しい満足を与えられるようにしなければなりません。

満足を与える対象者は顧客だけでなく、事業に関係する従業員、取引業者、下請け業者、同業者などの地域社会や行政などが含まれます。それらの人々の顧客のQOL（quality of life、生活の質）をいかに上げていくかを考えることが、健全な事業を営むことにつながり、職業奉仕に結び付くと思います。

また、ロータリアンは異業種の集まりであり、会員各自の職業を互いに知り、具体的に知らせることも職業奉仕につながるのではないかと考えます。

「四つのテスト」が企業の存続を図るための指針、また、ロータリアンとしての社会訓と考え、社会性、公共性、公益性という社会的責任を負っていることを自覚し、事業を通じて社会に奉仕する努力をしていきたいと思いません。（第2750地区 東京都）

患者利益

山形東 太田 貴志

私は、4年の勤務医を経て、開業歯科医師としての職業に就いて、32年になります。この32年の臨床で一貫して私の考え方の軸としてきたのが「患者利益」という言葉です。すなわち、「医療は、いつの時代にあっても、常に医療を受ける人々の利益を第一義として、人々の健康で快適な生活に貢献するものでなければならない」という基本的コンセプトが根底をなしています。

さらに私の従事する歯科医療の目的は、人々が生涯にわたって口腔の健康を維持し、健全な機能を全うすることにあります。すなわち、いくつになっても、笑顔でおいしいものを食べ、楽しい会話が自然にできるということ

あります。

健康な人は、その状態を生涯にわたって維持していくための、健康を損なっている人は、速やかにその病的な状態を改善して、健康を回復し、回復された健康な状態を生涯にわたって維持していくための、支援をしていくことが私たち医療従事者の責務と考えています。

「患者利益」を考えたときに、次に掲げる3つの項目を大切に考えています。

1. 正しい情報の提供
2. 技術の熟達度
3. 評価と評価結果のフィードバック

これらの3つの項目を、基本的ベースとして確実に実行することで、人々の健康で快適な生活に貢献していくことこそ、歯科医師としての職業奉仕と考えています。

そして、そこで大きな成果を上げることができれば、誇りと自信をもって、次の世代に伝えていくことで、みんなが幸福になっていくものと考えます。

（第2800地区 山形県）

自らの職業の社会的地位の向上に向けて

和歌山中 戎 敬史

1985年に和歌山中ロータリークラブの創立会員として34歳で入会し、28年が過ぎました。入会した当時は若いということもあり、ロータリークラブの基本的な理念である、その地域でその職業を代表してロータリークラブに参加しているとの意識はあまり感じていませんでした。ましてや、その職業の社会的地位の向上を目指すなどということは自分ではできないことと思っていました。

ところが、歳月を経て、今年、職業上で地域を代表する役職に就任することとなったのです。私の会社は産業用の資材を取り扱っていますが、ワイヤロープの加工と販売を主な仕事として

います。関西圏のワイヤロープの製造メーカー、商社、加工業者、販売業者が加盟する「大阪ワイヤロープ連合会」の会長に今年4月に就任しました。ワイヤロープの製造は関西が主流で、大阪ワイヤロープ連合会の会員数は約70社、業界では日本最大級の組合です。

この就任の際、まず頭に浮かんだのは「職業の社会的地位の向上」でした。

そしてこれを会長就任の際の目標としてまず発表しました。ワイヤロープは広く使われているにもかかわらず、テレビなどのニュースでも正確に報じられず「ワイヤ」と報じています。ワイヤは英語で針金のことで、ロープではありません。今、業界ではワイヤロープの知名度アップに向けていろいろな取り組みが始まっています。ラジオ、テレビに会員の会社が取り上げられたり、いろんなイベントに参加する準備を進めたりしています。この投稿もその一翼を担えればと考えています。

（第2640地区 和歌山県）

ある職業奉仕の一日

魚津 生駒 晴俊

「おはようございます」と明るく元気な声に、親しみあふれんばかりの笑顔でお年寄りを迎える若いスタッフの姿には、招かれる人も思わず安心な気持ちでいっぱいになります。

ここは、あるデイサービスの朝のひととき。小規模な施設で、雰囲気は家庭的な和みがあります。若い人たちが熱心に自分の家族を受け入れる姿に見えます。老齢になると動作が鈍くなり本人もどうかするといたたまれないような思いをしているのですが、スタッフはそれを察して慌てず急がず余裕を見せてケアをしています。スタッフの親身になって対応する優しさに、お年寄りも安心して心に「ほのぼの」としたものを強く感じます。そのことが、大切な信頼の絆を深めていくのです。

奉仕とはマニュアルから学んで実

践するものではなく、慈愛に裏打ちされ相互に思いやる心から成り立っているものであります。このように継続されていく対応は施設への訪問が大きな喜びとなって、今までいろいろ悩んでいたお年寄りも施設をわが家のごとく楽しんでます。

脳の機能を少しでも活性化させるために、スタッフは入所した人たちとの対話を心掛け、無理なく体のこと、日常生活での楽しみや思い出を語り合う場をゆっくりと作り上げていきます。入所されている人たちのペースを辛抱強く、と言いますか、あくまで相手の人格を尊重していく構えは、文字通り奉仕の精神があればこそ行うことができるのです。

職業を通じて行う弱い人たちへのサービスは誠に美しいもので、この精神が多くの人たちに広まることを願い、活動を続けるのがロータリアンの大切な務めと考えます。

(第2610地区 富山県)

職業人としての誇りと、万人に対する尊崇の念

四日市南 羽田 清志

2013年8月、国土を焼け焦がさんばかりの記録的な猛暑が続いている。一方、東北の方から、今まで経験したことのない記録的な大雨の報道があり、連日のテレビニュースのトップが気象の話題となっていることに少し戸惑いを感じている。

この異常気象と言われる日々においても、人間の営みは絶え間なく続いている。私が今筆を執っているのは、「夏の甲子園」の真っ最中の時期である。エアコンの効いた室内で事務を執ってられるのも、それぞれの持ち場において懸命な日々を営み続けていただいているおかげであろう。

東北の方では、自衛隊や消防団、警察官が懸命にその任務を果たし、社会の機能保全のための絶え間ない努力が

続けられているおかげである。

今般、表題について考える機会をいただいた。「私が考える職業奉仕とは」との問いに、職業に対し敬意を払うこと、すなわち他人を愛することにあると考える。

あらゆる職業によって社会が営まれ、人間社会が機能しているのである。私たちはその恩恵にあずかるとともに、世の中のために自分の与えられた職業を全うすることが肝要である。

職業人としての誇りと、万人に対する尊崇の念こそロータリー活動の源泉である「職業奉仕」であると考え。

(第2630地区 三重県)

ある「講演会」から

真岡西 鶴見 真

過去に私がロータリアンとして、ある高校で「将来たくましく生きる職業人としての考え方、進路決定に対する意識の高揚」のテーマのもと講演をしたことを思い出し、今回のテーマとは若干ニュアンスの違いがあるかと思いますが、職業奉仕の理想に込められておりますいくつかのコンテンツに相通じるものがあると思います、その内容を一部を再現し私の考えとさせていただきます。

まず、長野県の中学教師、清水貴司さんが成人式を迎える教え子たちに感想文を書いてもらった中の一つ。「例えば職場で重たいものと軽いものがあったら率先して重いものを持つ。そういう人間になることが一人前かな」。ガラス工芸の仕事を選んだ青年の言葉だそうです。

60歳を過ぎてから単身タイに渡り、スラム街で村人たちと暮らしながら、ボランティアで井戸を掘る仕事を続けた甲田寿彦さんの言葉。「心を結ばぬまま、金さえやれば良いという考え方は自立を妨げます。バラの花束を向こう岸に投げ込むだけでは、協力はできません」

80歳過ぎの女性が縁側で足袋を繕っていたときの言葉。「これはもういくら私でも履けません。でも長い間お世話になった足袋ばかりです。破れたまま捨てるのが申し訳なくて、こうして洗い繕いをしてから始末します」

20歳の青年の前向きな姿勢、甲田寿彦さんのボランティアに対する真摯な考え方、80歳過ぎの女性の「感謝する」という気持ち、それらについてもう一度深く考えてみたいと思います。

(第2550地区 栃木県)

感謝と奉仕

東金 高山 友二

ロータリークラブ細則には、「職業関係における諸責務を遂行し、各会員それぞれの職業における慣行の一般水準を引き上げるうえに役立つ指導と援助を与えるような方策を考案しこれを実施するものとする」とある。難しいことだ。無意識に過ぎてきた職歴を振り返ってみた。青少年期の3年半は軍隊である。軍人も職業、まさに命を賭しての至上の職業奉仕であったと思う。「軍人は忠節を盡くすを本分とすべし」勅諭の詔のままに命懸けの職業奉仕の実践であったと言って過言ではない。

生き残った私は、家庭を持ち子育てのときを迎えた。厳冬、子どもは風邪をひき、熱を出した。心配で寝ることもできず、深夜医者^まの玄関をたたき往診を乞うた。電話や車のない時代、すでに就寝の初老の医師は、嫌な顔もせず下駄^げの音とともに凍った道を往診してくれた。玄関の奥で医師を送る夫人の涼やかな声が耳に残っている。医療制度も人の意識も変わった。今日往診は稀である。当時、職業奉仕という概念があったのか「医は仁術」が似合う。里山に囲まれたよき時代の思い出、大きな感動と深い感謝が今も残っている。

やがて私も独立して会計事務所を持

った。「自利利他」を経営理念に掲げよく働いた。自利とは利他をいう。哲学的な理論解釈はできないが、自分も仕事もすべてを一心空なるものとして汗を流した。所属会の役職も引き受け、公務に微力をささげた。算盤を忘れてただ一筋に進めば利益は必ずついてくる。「至誠・純真・元気・周到」を所訓に己の職業を天職と信じて生きてきた。心身ともに健康で働ける感謝の気持ちで奉仕の心につながるものと思う。(第2790地区 千葉県)

より多くの人々に還元

富岡 鈴木 正範

富岡ロータリークラブに入会以来、17年になります。種々の奉仕活動についていまだ十分理解ができず、自問自答の連続であります。特に国際ロータリーが奨励するクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の五大奉仕プログラムのうち、この「職業奉仕」はどう理解すべきか、先輩会員にずいぶんと教えを乞いました。「職業」とは暮らしを立てるため日常従事している仕事＝生業なりわいとあり、「奉仕」は国家・社会などのために損得を考えず尽くすこと、とあります。元来日本人は勤勉・実直であり、終身雇用という言葉があるくらい頑張って今日の日本経済を支えてきました。そして、より良いものをより安く顧客に届け、喜んでもらうという基本姿勢も当然持っておりますが、これが職業を通じて社会に奉仕をしているという意識は、ほとんどの人が持っていないのではないかと思います。それは封建時代に士農工商と四階級に順序付けられ、商人は利にさといと侮辱されていた名残が意識の底に潜在し、表に出にくいのかと思うのは私だけでしょうか。職業が暮らしを立てるための手段だけではなく、より多くの人々に還元し奉仕をしているということを改めて認識して、しっかりと職業奉仕活動に取

り組んでいきたいと考えております。

(第2530地区 福島県)

相手のことを考え、人間関係を大事にする

豊田西 堀川 浩良

国際奉仕、社会奉仕の奉仕はロータリー財団の「世界でよいことをしよう」の標語がもとで、寄付を集め無料で良いことを行うことと思われていますが、これを職業奉仕に適用すると、おかしいこととなります。無料で商売をすることとなり、これは、商売でもなく、どちらかといえば、社会奉仕、国際奉仕となってしまいます。ロータリーの奉仕を全般で考えると、無料で「何か良いことを行う」のではないと思われれます。

では、ロータリーの奉仕はどのように考えるべきかということ、私は、「お役に立つ」ということだと思います。渡辺好政元国際ロータリー理事は、ロータリーを木に例え、職業奉仕は幹だと言われています。他の団体にはなく、職業奉仕はロータリーにおいては大事なものです。それは、職業人のロータリアンが、その商売でもお客さまのお役に立つように最善の仕事をし、また、その社会生活においても相手の立場に配慮し、行動するということが大事であると思います。すなわち、「相手のことを考え、人間関係を大事にする」のが、私の考える職業人であるロータリアンの職業奉仕です。

(第2760地区 愛知県)

美しい日本人、職業奉仕の原点

吉岐 長田 浩義

私は九州、壱岐島の麦焼酎蔵元の長男に生まれ、現在四代目として小規模ながら「壱岐焼酎を全国区へ」との思いで日々、悪戦苦闘しています。ひところ食品メーカーや料亭などで、商品

および原材料の偽装や賞味期限の改ざんなどが発覚し、会社重役たちが深々と頭を下げる映像が続きました。私も焼酎という食品を製造する職業柄、胸に重く受け止め、お客さまに「礼節をもって接し、正直であれ、誠実であれ」を自らに課すことを再認識しました。

幕末から明治にかけて多くの欧米人が来日し、日本人の気質や暮らしぶりへの記録を残していますが、東洋の島国の習慣に違和感を覚えながらもその精神文化の豊かさや庶民の民度の高さに驚きを示しています。イギリス人女性イザベラ・バードは『日本奥地紀行』で行く先々で美しく耕作された田畑に「草ぼうぼうの『なまけ者の畑』は、日本には存在しない」と農民の仕事ぶりをたたえ、供をした馬子について「昨日のことであつたが、革帯が一つ紛失していた。もう暗くなっていたが、その馬子はそれを探しに一里も戻った。彼にその骨折り賃として何銭かあげようとしたが、彼は、旅の終わりまで無事届けるのが当然の責任だ、と言って、どうしてもお金を受け取らなかった」、「彼らは礼儀正しく、やさしくて勤勉で、ひどい罪悪を犯すようなことは全くない」と記しています。

私はまさに職業奉仕の高潔性と倫理の規範である「四つのテスト」の原点を見た思いで、日本人としてまた壱岐焼酎に対しての誇りを持ってさらに職業意識を高めたいと感じました。

(第2700地区 長崎県)

好意と友情

米子南 中津尾直己

私は入会からまだ日が浅い若輩者であり、本誌に寄稿するなど恐れ多いことではありますが、依頼により思うところを書かせていただきます。

「奉仕の理想に集いし友よ 御国に捧げん我等の業…」

説明するまでもない、ロータリーソング「奉仕の理想」の一節です。ロー

タリークラブに入会の誘いを受け、インフォメーションを経て会員として最初に触れるのがこの「奉仕」という言葉です。「自分の職業スキルを奉仕に生かす……」。これは正直に言うとうわかるようでわからないのが本音でありました。「勉強になる」「仲間が増えるぞ」「会社のためにもなる」「昼メシ食いに来い」と誘われて入会した方も少なくないと思いますし、私もそういう実利を求めていたことも事実であります。

そして入会後に「奉仕」という言葉に直面します。このときに一つ、戸惑いを感じました。それは、私たち企業人は、「奉仕」の反対側にある実利（利益）を大事な指標の一つとしているからです。しかし、その企業における活動がお客さまに不誠実であったり、自分だけ多くの利潤を得たりするようなものは認められないことは自明であり、その観点から考えると先ほどの「実利」と「奉仕」は矛盾しないものということが見えてきます。そして、その実践とクラブにおける行動が一つの「理想」につながりますが、その手前にある現実というものに翻弄ほんろうされているのが今の私ではないかと思えます。ここで重要となることが「四つのテスト」なのでしょう。

「職業奉仕」については、先輩諸氏に話を聞いたり、過去の文章などを読んでみたりしても、人それぞれに考えがあるようです。その中で会員一人ひとりが真面目にその命題について日々考えていることは共通しています。それは、「好意と友情」、それを深めていくことこそが職業奉仕の実践につながるのかもしれない。

(第2690地区 鳥取県)

あまちゃんロータリアンが考える「職業奉仕」

青森 松隈 天

この2か月間は、大変、慌ただし

い日々であった。東京から青森への転勤。業務の引き継ぎ、あいさつ回り、そして、ロータリークラブへの入会。慌ただしく毎日が過ぎていく中でこの原稿の依頼がきた。そこで、「職業奉仕」について自分なりに考えてみた。

ロータリーの大切な精神は、「職業奉仕」と「社会奉仕」、「国際奉仕」と理解している。「社会奉仕」や「国際奉仕」は、よく使われる言葉でわかりやすい。しかし、「職業奉仕」という言葉は、具体的に何をすればいいのかわかりにくい。「職業」という生計を維持するために、金銭を稼ぐという言葉と、「奉仕」という自分への見返りを求めずに、他のために尽くすという言葉は、一見、相いれない行為に思える。しかし、私たちは職業人であるから、自らの職業を離れて奉仕をすることは日常的には難しい。ということは、自らの職業を通じて奉仕をしなさいという意味ではないかと気付いた。職業というのは、必ず、社会的な役割を担っている。これを大切にしながら仕事をすることによって社会に奉仕ができる。社会に奉仕できれば、その職業は社会的な地位を獲得でき世間から評価される。ひいては、その評価は自分に返ってくる。という循環が、クラブが狙いとする「職業奉仕」ではないかと思う。つまり、自分の職業の社会的役割をきちんと果たしましょう。そのためには、会員同士で、職業上の倫理観、道徳観を磨きましょう。それは、最終的に自分に返ってきますよ、ということではないか？これが入会2か月のあまちゃんロータリアンが考えた「職業奉仕」だ。

(第2830地区 青森県)

人として守るべき道

栃尾 大野 源

小生は、38年間の教員生活を終えてからロータリーの仲間入りをさせていただきました。教員の日常活動は、

金銭的な利害が一切ありません。経済活動を基盤に生活されている方々とは異にしています。

従って、ロータリーに入れていただいてからは、何もかもが新しく、学ぶことが多いと感じています。特に、職業奉仕については、深く考えさせられました。

業種によってさまざまな取り組みがあります。そして、考え方も違います。卓話をなるほど、なるほど聞きながら、教員生活と比較していました。金銭的な利害の中で生きる職業と、金銭的な利害のない世界では、判断の基準が違うことに気がきました。人間形成や学力向上を目的としているものと、利潤を追求しているものに違いがあることは、当然です。

それでは、どう共通点を見いだしたらいいのか、大変悩みました。あれこれ調べている間に、職業奉仕とは「職業の道徳性と品位を高め、その価値を認めること」(前原勝樹、重田政信『ロータリー入門書』北斗事業出版、2010年)や「ただしロータリーでは、利益をあげようと思って職業奉仕をするものではありません。天職を通じたサーヴィス(職業奉仕)、相手のことを考え、皆のためになるように、そういう職業活動をする。それがビジネスの繁栄につながるという考えです」(廣畑富雄『ロータリーの心と原点』エムケイスペース、2006年)の言葉にぶち当たり、両者がつながりました。

また、深川純一氏の論文『職業奉仕の原理とその実践』の中で「職業奉仕を理解するために、どうしても心に留めておいていただきたいことは、ロータリー運動と申しますものは、倫理運動であるということであります」という一文に遭遇し、納得することができました。言い換えると、職業奉仕は「人として守るべき道、あるいは、人としての道」と考えた方がいいのだ、と落ち着きました。

(第2560地区 新潟県)

商業高校で出前授業

太田RC 2012 - 13年度職業奉仕委員長 春山 和夫

太田ロータリークラブ職業奉仕委員会は3月14日、昨年からスタートした太田市立太田商業高校出前授業の第2回を実施した。午後12時からの昼食と例会セレモニーの終了後、会員30人がスピーカーと進行役(14班)に分かれ、20人×14班に分けた2年生全280人を対象に授業を行った。

14人のスピーカーは、運送業、銀行、県人事委員会、不動産、情報処理、医師、製造業、地域活動家など个性的なメンバー。働くことの意義、社会の求める人材、経験談などを直接経営者から聞くことで進路選択に役立てたい、また大人とオフィシャルな会話をする機会がほとんどない生徒たちに、大人との丁寧な会話を経験させてみたい、という学校側からの要望に応えたものである。

各スピーカーの略歴とスピーチの骨子を事前に知らされていた生徒たちは、興味のあるテーマごとに授業を受けた。前回は会員2人のスピーチを聴く、という形式だったが、生徒の希望で、グループディスカッションや

質疑応答などの時間を30分以上取ることにし、授業は進行役の会員が、生徒やスピーカーの雰囲気を取り込み、自由に運営する形にした。和やかな雰囲気の中、生徒と会員の活発な意見交換がなされ、大変盛り上がった。

最終のセレモニーでは、職業奉仕委員長が「いまどきの高校生が真剣に意見交換する姿を見て、われわれ大人たちが若者にいかに真摯に向き合っていなかったか気付かされた」と語り、天田比呂志校長(当時)は「前回の出前授業の結果、就職、進学の出前授業の進路が今年初めに95%決まり、他校のせん望の的となりました」と、その成果を述べた。進路指導主事の城下紀子先生が、「私たち教師とは異なり、経営者の皆さまの生の声は、生徒たちの進路や今後の学校生活に大変役立つものです」と締めくくった。

出前授業は地元紙が取材し、翌日の朝刊に掲載された。ロータリーの公共イメージ向上にも貢献できたと考えている。(第2840地区 群馬県)

